

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	卒業研究 I
科目基礎情報					
科目番号	0089		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 各指導教員に委ねる, 参考書: 各指導教員に委ねる. 情報セキュリティ教材[高学年分野別導入教材]				
担当教員	電気電子工学科 全教員				
到達目標					
研究を通して, 電気・電子・情報・通信工学に関する分野で, 習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し, 習得した知識をもとに創造性を発揮し, 限られた時間内で仕事を計画的に進め, 成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	実験, 研究を進める上で解決すべき課題を正確に把握し, 解決に向けて自発的に関係する資料を調査でき, 継続的に学習できる。	実験, 研究を進める上で解決すべき課題を把握し, 解決に向けて関係する資料を調査できる。	実験, 研究を進める上で解決すべき課題を把握できず, 関係する資料を調査ができない。		
評価項目2	実験, 研究の目的を明確化できており, その解決に向けて自らの創意・工夫による方法で計画的に研究を進めることができる。	実験, 研究目的の解決に向けて計画的に研究を進めることができる。	実験, 研究目的の解決に向けて計画的に研究を進めることができない。		
評価項目3	レポートを論理的に記述できる。	レポートを記述できる。	レポートを適切に記述できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電気・電子・情報・通信工学に関する実験研究の遂行を通して, これまで学んできた学問・技術の総合応用能力, 課題設定力, 創造力, 継続的・自律的に学習できる能力, プレゼンテーション能力および報告書作成能力を培い, 解決すべき課題に対して創造性を発揮し, 解決法をデザインできる技術者を養成する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての内容は, 学習・教育到達目標 <ul style="list-style-type: none"> (A) 技術者としての姿勢<意欲> (B) 基礎・専門の知識とその応用力<展開> (C) コミュニケーション能力<発表>に対応する。 ・ 「授業計画」における「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 ・ 各指導教員の指導の下に, テーマ研究, 見学, 実験等を行う。 各科の情報セキュリティ導入教材を受講する。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」1～4の修得の度合いを, レポートにより評価する。1～4に関する重みは同じである。レポートを100%として評価し, 100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように, 内容のレベルを設定する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>レポートを100%として評価し, 100点満点で評価する。</p> <p><単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲>本教科は, 創造工学の学習が基礎となる教科である。</p> <p><レポートなど>理解を深めるため, 適宜, 関係論文, 書物を与える。</p> <p><備考>本教科は, 後に学習する卒業研究Ⅱの基礎となる教科である。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	調査研究・実験	1. 実験, 研究を進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習することができる。	
		2週	調査研究・実験	1. 実験, 研究を進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習することができる。	
		3週	調査研究・実験	1. 実験, 研究を進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習することができる。	
		4週	調査研究・実験	1. 実験, 研究を進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習することができる。	
		5週	調査研究・実験	2. 実験, 研究を進める上で解決すべき事柄を認識し, その解決に向けて意欲的に学習することができる。	
		6週	調査研究・実験	2. 実験, 研究を進める上で解決すべき事柄を認識し, その解決に向けて意欲的に学習することができる。	
		7週	調査研究・実験	2. 実験, 研究を進める上で解決すべき事柄を認識し, その解決に向けて意欲的に学習することができる。	
		8週	調査研究・実験	2. 実験, 研究を進める上で解決すべき事柄を認識し, その解決に向けて意欲的に学習することができる。	
	4thQ	9週	調査研究・実験	2. 実験, 研究を進める上で解決すべき事柄を認識し, その解決に向けて意欲的に学習することができる。	
		10週	調査研究・実験	3. 実験, 研究の目標を意識して, 自律的・計画的に学習することができる。	
		11週	調査研究・実験	3. 実験, 研究の目標を意識して, 自律的・計画的に学習することができる。	
		12週	調査研究・実験	3. 実験, 研究の目標を意識して, 自律的・計画的に学習することができる。	
		13週	調査研究・実験	3. 実験, 研究の目標を意識して, 自律的・計画的に学習することができる。	

		14週	調査研究・実験	3. 実験, 研究の目標を意識して, 自律的・計画的に学習することができる.	
		15週	調査研究・実験	4. レポートを論理的に記述することができる.	
		16週		4. レポートを論理的に記述することができる.	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
			レポート	合計	
総合評価割合			100	100	
配点			100	100	